

## プラットワンコインコンサート

### 二宮綾音&小田かるら「音初め～フルートとピアノで紡ぐ春風の音彩～」

2025年1月4日(土)14:00 開演

会場:穂の国とよはし芸術劇場 PLAT アートスペース

出演:にのみやあやね(フルート)、おだかるら(ピアノ)

#### 【コンサートプログラム】

##### 1. 宮城道雄作曲、春の海

この曲は、昭和 5 年の歌会始の勅題「海辺の巖」にちなんで作曲されました。作曲者の宮城道雄は、瀬戸内海を旅行した際に島々の桃の花が咲き乱れる様子の会話を耳にしたことがきっかけで、その情景を思い浮かべて作曲したと言われています。この曲は尺八と箏のための曲ですが、今日はピアノとフルートで新春のねいろをお楽しみください。

##### 2. ラヴェル作曲、クーブランの墓より 1.プレリュード

ラヴェル(1875～1937)はフランスの音楽家で、印象派音楽の代表的な作曲家として知られています。緻密な作曲技法と洗練された音色で、管弦楽曲やピアノ曲、バレエ音楽などの分野で独自の世界を築きました。この曲は、1914年から1917年にかけて作曲家された6曲からなる組曲です。プレリュード(前奏曲)、フーガ、フォルラーヌ、リゴドン、メヌエット、トッカータの6曲からなり、第一次世界大戦で戦死した知人たちへの思いが捧げられています。本日はプレリュードのみお送りします。

##### 3. クーブラン作曲、愛のうぐいす

フランス・バロック音楽を代表する作曲家フランソワ・クーブランが作曲した、優美で繊細なクラヴサン曲です。この作品は鳥のさえずりを模した装飾的な音形が特徴で、愛の喜びや自然の美しさを織り込んだ情景が描かれています。技巧的でありながら、豊かな詩情が感じられる一曲です。本日はピッコロとピアノでお送りします。

##### 4. ムーケ作曲、フルートソナタ《パンの笛》より第1楽章

ムーケは19世紀末から20世紀初頭にかけて活躍したフランスの作曲家です。いくつかの作品はギリシャ神話や古代ギリシャの文化に着想されています。この曲はギリシャ神話「獣神パン」を

題材とした曲で、今日演奏する第 1 楽章ではパンと羊飼いの交流が描かれています。パンはギリシャ神話において牧羊神であり、自然と調和した存在です。牧羊的な風景と、羊飼いたちとパンと一緒に過ごす穏やかな時間をお楽しみください。

#### 5. 滝廉太郎作曲、二宮綾音編曲、荒城の月

1901 年に滝廉太郎により作曲された日本歌曲で、土井晩翠の詩に基づいています。荒廃した城跡に照らされる月の光を通して、過ぎ去った栄華や無常感を情感豊かに描いています。西洋音楽の技法を取り入れながらも、日本の風情を見事に表現したこの名曲を、本日は無伴奏フルートのために編曲しました。

#### 6. ダマレ作曲、白つぐみ

ウジェーヌ・ダマレはフランスのフルート・ピッコロ奏者であり、フルートのみならずピッコロ作品も数多く残しました。白つぐみという鳥は、黒つぐみやクロウタドリのアルビノ個体のことを指す。アルビノのつぐみは通常のつぐみと異なり、全身が白い羽毛で覆われて目は赤く、非常に希少であるために神秘的で幻想的なイメージが付与されることが多いです。本来はフルートの曲ですが、ピッコロ版の「白つぐみ」では、ピッコロの明るい煌びやかな音色が曲の軽快さと相まって、楽曲の楽しさをより一層引き立てています。

#### 7. シューマン作曲、ソナタ第 3 番より第 1 楽章

シューマン(1810~1856)はドイツでのロマン派を代表する作曲家で、彼の音楽は深い感情表現と文学的な要素が特徴です。晩年は精神的な問題に悩まされ、精神病院へ入院しました。この曲は、シューマンの恋人であるクララの動機に基づいて作曲されています。初版では、「管弦楽のない協奏曲」と題され、管弦乐的な多様な多彩感をもった華やかな作品です。

#### 8. ヴァレーズ作曲、密度 21.5

1936 年にエドガー・ヴァレーズによって作曲された無伴奏フルートのための作品です。モダンフルートの素材であるプラチナの密度(21.5 g/cm<sup>3</sup>)に由来するタイトルが付けられています。この曲は、当時のフルート音楽の新境地を切り開いた革新的な作品で、独特な音響効果やリズムの複雑性、広範囲の音域を特徴としています。斬新で表現力豊かなこの作品は、20 世紀音楽を代表する重要なレパートリーの一つです。

#### 9. プロコフィエフ作曲、フルートソナタ第 3、4 楽章

1943 年にプロコフィエフによって作曲されたフルートとピアノのための名作です。明快で優美な旋律、独特のリズム、そしてドラマチックな展開が特徴で、プロコフィエフらしい予想外の展開や軽妙なリズム、遊び心のある表現など、聴き手に驚きや楽しさを与える要素や抒情性が全編にわたって感じられます。戦時中に作曲されたとは思えないほど明るく親しみやすい作品で、フルートの

表現力を存分に引き出し、多くの演奏家や聴衆に愛されています。